



キャンパス・コンソーシアム函館  
合同公開講座

函館学 2010

第3回講座  
講義資料

「函館の近代建築遺産」

鈴木 博之

東京大学名誉教授  
青山学院大学教授・博物館明治村館長

コーディネーター 西村 淳 函館大学 准教授

日時：平成 22 年 10 月 9 日（土）午後 2:00 ～ 3:30

会場：ロワジュールホテル函館

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

## 講師略歴

すずき ひろゆき

**鈴木博之氏** 東京大学名誉教授  
青山学院大学教授・博物館明治村館長

1945（昭和20）年東京生まれ。東京大学工学部建築学科を卒業、大学院に進み1974年東京大学工学部専任講師、1974-1975年ロンドン大学コートールド美術史学研究所に留学。東京大学助教授を経て教授に就任。我が国を代表する建築史家のひとり。2005（平成17）年には紫綬褒章を受章。

著書に『建築の世紀末』（1977年 晶文社）、『東京の「地霊」』（1990年 文藝春秋）、『都市のかなしみ 建築百年のかたち』（2003年 中央公論新社）など多数、このほか共著・翻訳活動など活躍は多岐にわたる。1990年『東京の「地霊（ゲニウス・ロキ）」』によりサントリー学芸賞受賞。

日本建築学会・副会長・評議員・理事・編集委員長・正会員、イコモス国内委員会委員、建築史学会常任委員、明治美術研究学会常任委員、文化庁文化財保護審議会専門調査改委員、文部省大学設置審議会委員などを歴任。2010年春からは、愛知県犬山市にある博物館明治村の館長を務める。

また現在「DOCOMOMO Japan」の代表である。DOCOMOMO Japanは東京中央郵便局庁舎はじめ各種近代建築物の保存要望・提言・啓発等の活動を展開。昨年11月には、函館市・函館市議会・函館市教育委員会に対して『「函館市立弥生小学校」保存・活用要望書』を提出した。

### ※ DOCOMOMO

Documentation and Conservation of buildings, sites and neighbourhoods of the Modern Movement

～モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織

## コーディネーター略歴

にしむらじゅん

**西村 淳氏** 函館大学 准教授

1958（昭和33）年神戸市生まれ。

筑波大学博士課程社会工学研究科中退、1988年より函館大学に在職。専門分野は地域計画学。

日本計量史学会理事・函館市開発審査会委員・函館市生活交通協議会委員などを務める。

# 函館の近代建築 その保存と継承に関して

鈴木博之

青山学院大学教授・博物館明治村館長

## 函館の特質

幕末の先進地 五稜郭（1864：元治元年） 武田斐三郎 オランダ流築城法

近代開港5港のひとつ

多様な建築遺産：開拓史、道庁函館支庁、ハリストス教会、大谷は別院、ロシア領事館  
中華会館、金森倉庫、近代オフィスビル群、都市型住宅

## 近代の文化遺産の特質：大量・多様・大規模

近代化遺産：建築＋土木＋都市＋史跡＋

近代のあゆみを示す遺産だけでなく、地方的なもの、非主流の技術も

捉え方の変化：国宝・重要文化財・重要美術品・特別史跡・史跡・名勝……………

指定文化財と登録制

## オーセンティシティ Authenticity

材料、デザイン、技法、場所が、当初から変わらずに保持されつづけていること

（1964年ヴェネチアで採択された「ヴェネチア憲章」による）

1994年11月のイコモスの奈良会議でのオーセンティシティ概念

formとdesign / materialとsubstance / useとfunction / traditionsとtechniques / locationとsetting  
/ spiritとfeeling

6対、12項目：「形態」と「意匠」、「材料」と「材質」、「用途」と「機能」、

「伝統」と「技術」、「立地」と「環境」、「精神」と「感性」

## 文化資源という視点

（保存）

文化財 (Cultural Property)

（固有性）

文化 (Culture)

文化遺産 (Cultural Heritage)

文化資源 (Cultural Resource)

文明 (Civilization)

（活用）

（普遍性）

文化多様性の重要性／IT化時代におけるデジタル情報とオリジナルの意味